

あったかいまち「ふじみ野」を目指して タウンミーティング  
日時 平成26年9月25日(木) 19時30分～21時04分  
会場 コスモスホール(上福岡1丁目)  
天気 曇り

参加者 59名



### 主な意見等

参加者 毎朝公園を散歩で通るのですが、「あったかいまち」を目指している割に、桜の木に対する市の温かさが無いと思います。

また、公園の土がいつもガタガタで、「子どもでも転ぶ公園だ」と子どもが言っていました。私は10年歩いていますが、依然として直されていません。

桜の木がどんどん切り倒されていますが、どうにかする考えはあるのでしょうか。

桜の木の根元を市の職員が見ていません。城崎(温泉)では根っこを人に歩かせないようにして桜の木を守っています。そこまでしなくてもいいと思いますが、今の状態で桜の木を大切にしているとは思えません。

市長 公園について、可能なら何とかしていきたいと思いますが、先ほどお示したとおり、財政をいかに安定的に、限られた財源を有効に分配していくという観点で、いろんな分野にお金をかけねばなりません。公園のお話は同様の意見もいただいています。そのなかで、特に桜の木については、古い樹木は樹木医の診断をしている状況です。

公園の泥については雨水がたまってしまうので、今年その対策を講じている状況です。その辺も含めて、自然環境については極力現状を守っていききたいと思います。

公園に限った話ではないのですが、どうしても伐採をせざるを得ないようなこともあります。上野台小学校では放課後児童クラブを移動する関係で切らざるを得なくなり、心苦しいところでありました。

これからは植栽も考えていかねばなりません。緑の保護・保全、今ご指摘のあった公園の樹木についても、今まで以上にご指摘いただいた点にも対応していかなければならないと思います。

参加者 上福岡駅東口について美しくなりましたが、車と人が混同したような形です。緊急時には整理する人がいると思いますが、もう少しすっきりできないのでしょうか。将来的な計画がありましたら、お聞かせください。

市長 昭和30年代から都市計画決定がなされているにもかかわらず、残念ながら行政が積極的に行動していなかったというのは事実としてあります。私は市長就任後に周辺の方々のご理解をいただき、ようやく暫定的に片側だけの整備が終わりました。片側だけということで、今後も周辺の皆さんにご理解をいただきながら、正式な形で両側の整備をしていきたいと思っています。

ただ、計画をした当時から50年近くが経ってしまい、駅前一等地の代替地すらない状況の中で、御理解をいただくのは大変困難な状況です。その場所に長年お住まいの方は、愛着を持っていますし、それに代わるものが提供できない中で、なんとかご理解いただけるように進めております。現在、まだ正式に政策決定されたわけではないのですが、できれば駅舎も含めて何らかの整備ができないかと思っています。限られた面積ですから、そこに新たな土地を作り出すのは難しいので、再開発とまではいかないが、街の玄関口にふさわしいようなものを考えて聞きたいと思います。東武鉄道に御協力いただけるかなど相手がある話ですし、周りの地権者の方にも何らかのご理解をいただくという方策も必要かと思っていますので、大変な作業になってくるかと思いますが、

今現在、開発の専門家をお願いしてあの周辺の調査を行っていただき、今後どのようなものが可能かどうか検討を進めています。

ご指摘のとおり、現状ではどうしても車道を通っていただく方が多いのですが、その点はできれば市民の皆さんのモラルをお願いするしかないのですが、万が一の時も含めて、何らかの利便性の良い、そしてみなさんから見て立派になったなという形を作れるように頑張りたいと思います。

参加者 上福岡駅のそばに住んでいる高齢の一人ですが、家を出て歩道を歩くと、歩行補助具を使う関係でガラガラ音がしまい、通行人がみんな振り返ってしまいます。

40センチ位の幅でも良いので、タイルとタイルの間にセメントなどで詰めて、平らにしていだけないでしょうか。

若い方もキャスター付きの荷物をひいて歩いていると、ガラガラと大きな音がします。

ぜひ平らな歩道を作っていただきたいと思います。

市長 歩道の形状は四角いタイルを敷き詰めたようになっていて、その段差でガラガラ音がしてしまいます。これについては、隙間を埋められるものなのかどう

か、ご要望があったということで持ち帰って検討させていただきたいと思います。

ご高齢のかたが増えており、当時整備したときとは時代が変わってきていますので、メリット・デメリットを考えながら、担当と検討していきたいと思います。

参加者 市民の森を作る構想があるのか、伺います。

市の方でお金を出して植樹するのではなく、例えば市民が個人的な節目の時に記念植樹をするというような考え方はいかがでしょうか。例えば赤ちゃんが生まれたときに、そのお子さんための記念植樹というようなものです。

植える場所があれば、あとあとも何かの記念の時に、そこへ行き、育ち具合も見るなどをして、木を見る楽しみも生まれるのではないかと思います。

もしそのような個人で土地利用が出来る場所があれば、私は真っ先にお金を出してでも参加したいと思います。

市長 今のところ市民の森という計画はありませんが、お隣の富士見市で、何かの記念の際に市民の方が木を植える取り組みをしています。

ふじみ野市の場合、旧大井町の地域では緑地保全というものに力を入れてきた経緯もありますが、そうした流れの中で、ご提案いただいたように公園の片隅や市役所の敷地などに記念の植樹で緑を増やしていくことはすばらしいと思います。ご提案は何らかの形にできるように考えていきたいと思います。

参加者 タウンミーティングは大井のほうもやるのですか。

市長 市内に現在55町会ありますが、各自治会の行事やなどもあるので、年内に全てを行うのは無理ですが、皆さんの希望日に沿って、全町会でやる予定です。

参加者 ごみの分別について、実際に分別したものが、それぞれ分別されて処分されているのでしょうか。

市長 可能な限りリサイクルとしており、活用していく方法をとっているのですが、専門的すぎてしまうため、細かい点についてはご連絡先をお聞きした上で、ご回答いたします。

参加者 大井の多目的グラウンドはどれくらいの広さで、グラウンドの形状はどのよ

うなものでしょうか。

福岡高校の跡地についてどのように進展しているのか、できれば払下げで市のものになってほしいと思いますが、金額的なことを教えてください。

野球場について、現在は野球だけに使用が限定されていますが、グラウンドを傷つけない程度の軽スポーツ程度ならば利用できるようになるのでしょうか。

市長 大井清掃センター跡地に整備中の多目的グラウンドの面積は約6,000㎡で、大人のかたがソフトボールをできたり、少年野球・少年サッカーができたり、フットサルでしたら2面できます。グラウンドゴルフにも使っていただけます。人工芝で最新の程度の良いものを整備しようと計画しています。

野球場は基本的には野球専用とさせていただいています。野球場利用としては土日の利用が多いのですが、平日に時間を限らせていただくなどして、野球以外の利用の方法が可能かあるのかについて、検討させていただきます。

旧福岡高校の活用の進展についてですが、埼玉県で利用予定がないということなので、ふじみ野市が活用させていただきたいと手を挙げています。先ほどの未来政策会議で活用についてご議論をいただいておりますが、今年度は国交省の予算をいただいで、民間がどのように使えるかどうか調査しています。

できれば来年度早々には取得したいという思いがあります。当初県が提示している金額が約10億円と高額です。グラウンド、体育館、テニスコートはそのままでも使える状態なので、スポーツ施設が足りないという課題もあり、すぐにでも手に入れたいという状況です。本年度中に概ね道筋をつけて、できるだけ早期に確保していきたいと思います。

今の建物は、県が維持していただくだけで年間3,000万円近くの予算が必要ということらしいので、建物をどれだけ有効に活用できるのか、その辺を見いだしていくことが大切です。あわせて、これまで本庄高校を学校法人が県から安く購入しています。学校法人と自治体との相違点についても踏まえて県と交渉していきたいと思います。少しでも安く確保したいと思っていますので、今しばらくお待ちいただきたいと思います。

参加者 市立保育所の廃止の件ですが、新たに市としては建てないということに、ショックを受けました。利用者にもどのようなメリット・デメリットがあるのか、市の負担がどうなのかについてご説明をお願いします。

市長 新聞報道がなされましたし、駅前でも反対のビラや署名運動もありました。9月の議会で公立保育所の廃止の条例が可決をされましたが、それまでは市として公表しづらい状況でした。

ふじみ野市内の保育事業は公立保育所と民間の力をお借りした認可保育所、

認可外保育所、家庭保育室などがあります。民間の力を借りながら、これまでも保育を実施してきました。

以前の国の制度では、公立であっても建設費用や運営費用に補助金がありました。ところが国の政策上、制度が変わり、公立保育園に対する建設費や運営費の補助がなくなりました。一方、県から認可を受けた民間保育所に対しては補助があります。そのために市としては、公立保育所を新たに建設や古い保育所を建て替えていく方針はありません。これが大前提です。

そのうえで、今回の2園廃止についてですが、保育所の場合は延べ床面積500㎡以上、2階建ての以上の施設について耐震診断することとなっています。その結果、滝保育所が耐震強度不足ということで耐震補強をしました。ところが、500㎡よりも小さい保育所は耐震診断をしなくてもいいのか、それが子どもたちを預かる対応として良いのか、という視点にたち、500㎡以下のところも耐震診断を行いました。その結果、亀居保育所、西保育所について非常に耐震性が低く、その次に、亀久保保育所、鶴ヶ岡保育所の耐震性が低い結果でした。

建築してから40年以上が経過し、耐震診断をした結果、非常に悪く、このままでは使えないということでした。耐震補強工事も難しいということで、今年の6月に廃止を決定しました。

その経過の中で、かつての旧上福岡市と旧大井町とで、公立保育所の在り方が違い、西保育所は市有施設ですが、亀居保育所は土地も建物もお借りし、かなりの賃料をお支払いしています。建物が借り物なので、市が勝手に耐震補強工事をすることはできず、オーナーのかたにお願いする必要があります。しかし、その額は建て替えるのと同じくらいかかります。建て替えた方が早いという話もありますが、公立保育所として建て替えない方針ですので、建て替えず、耐震補強はしないこととしました。

この結果、子どもたちの行き場がなくなるわけではなく、以前から待機児童対策ということで、来年4月に民間保育園を3園開園し、283名分の待機児童対策をしようとしていました。待機児童対策でしたが、耐震強度不足の子どもたちを優先的に受け入れ、移っていただきたいという話です。決して、廃止をして行き場がなくなるというものではありません。

市として公立保育園は作っていかず、民間の力をお借りして、保育事業を継続していく政策です。

なんとか使えないかという議論をしていたので、6月の発表となり、廃止が来年3月ではあまりにも急ではないかと、反対されている方もいます。しかし危険性がある以上、40年を経過する古い建物ですから、安全確保したうえで保育を提供することが基本だと思い、しっかりと認可を受けた民間保育所で保育の提供を継続していこうとの考えです。

今の制度で国が民間の保育園に手厚いかということを皆さんに説明しますと、公立保育所で一人のお子さんをお預かりした場合、公立・民間ともに、保護者の方が負担する保育料は所得階層に応じて均等です。民間だから高いというものではありません。

ところが、市として持ち出す額は、公立保育所だと一人のお子さんをお預か

りする場合、年間約130万円かかります。これが民間保育園では国や県の補助があるので、市が持ち出すのは一人40万円です。言い換えると公立で一人のお子さんを預かるのであれば、民間で3名のお子さんを預かることが出来ます。

なぜ公立でなければいけないかという点で、公立保育所は経験年数が豊富な保育士さんが多いからと言うかたがいますが、民間では、一生懸命やろうとする人材を確保しています。決して若いから出来ないわけではありません。また、認可外の保育士さんが認可保育所に勤めると、これまでの経験年数が含まれないこともあります。経験が浅い人ばかりというように反対される方が言われますが、決して民間が悪いと言うわけではありません。

民間園がさも悪いように言われるのは、余りにもひどいものですので、民間保育所の理事長さんや園長さんたちに、今までの経緯や市の決定に対する反対運動についてお詫び申し上げ、むしろ民間園に力を貸してほしいとお願いをしています。

保育所に入りたいと市に申請する際に、第1希望から第3希望まで書いていただきますが、公立保育所を希望するからと言っても、決して入れるわけではなく、その人の仕事の状況、家庭の事情やエリアなどを考慮しながら、公平に判断して、保育所を指定しています。

反対運動されている方と懇談をしている中で、「亀井と西保育所の廃止を公表しているけれども、次の亀久保、鶴ヶ岡はどうなのか」という質問がありました。それについても「早く子どもたちを安全な園に移っていただきたい」と申し上げたところ、その次の質問として、「亀久保、鶴ヶ岡も廃止ということになるのですか」と聞かれ、「それも有り得るが、方針決定はしていない」と答えると、会場にいた新聞記者に次の日に廃止決定と記事にされてしまいました。

市民の皆さんに、新聞報道だけでは真意は伝わらないと思いますが、我々も、正しい情報をお伝えしたいと思います。

次に耐震強度不足が指摘されている、亀久保保育所・鶴ヶ岡保育所についても、早くに方針決定をしなければ、今年の11月には、来年の4月からの入園申請が始まります。入園申請について、もし廃止をするなら新規入園を中止しなければならず、反対運動が起こるかもしれません。

公立保育所でなければいけないのだと言う人がいますが、保育を受けたいという潜在的な待機児童はたくさんいます。

今回新しくできる3園のうち代替えとしては2園が中心となりますが、そこで受け入れたとしても新たに103名待機児童が解消されます。

平成28年度にはできれば新たに3園開設を目指して、取り組んでいます。正しい情報が伝わらなくて申し訳なかったのですが、私は皆さんの税金、極端なことを申し上げると、保育所を使わない方の税金を使って保育を提供しています。保育を必要とされている人に、民間事業者も一生懸命保育を提供していること、大勢の皆さんの力で保育の提供を受けていることを是非認識してもらいたいと思います。

先日、栃木を震源とする大きな揺れがありました、2園の保護者の方からも

問い合わせがありました。やっぱり心配で安全な園に移りたい方が多いのではないかと思います。

参加者 霞ヶ丘の人たちが東武東上線の下を通れるような道を作ってほしいと市長に要望がなされたと思いますが、市長の見解をお願いします。  
また、上福岡駅前の整備について教えてください。

市長 駅前の話ですが、駅周辺の方は以前からも比較的協力的です。  
暫定整備された側のロータリーについては、敷地は東武鉄道、建物は民間の所有でした。私が市長になる前から協力体制がとれていましたが、先ほど申し上げた通り、行政の側が進めてこなかったのは事実です。私が市長に就任してから、何度もお話をしていく中で御協力をいただき、ようやく片側ができました。もう片側についても、協力をしていただく姿勢を示していただきました。ただ、その場所で営業をしたり、土地を貸している方もいらっしゃいますので、その方々のご要望に答えられるように、土地の面積がない中で、期待に答えられるような代替え地を提供できるかどうか、検討を進めているところです。

もう一点の、霞ヶ丘自治会から先日要望書が私に提出されましたが、駅の西側から、歩行者や自転車が通れるような地下道を作ってくれないかという内容でした。こちらについては相当困難なご要望と思います。

地下道を作ると高低差が生じ、階段や勾配を作るとともに地下道の距離も必要となります。かつて東西連絡道路として、普通車両が通れる道路を計画していましたが、国の事業認可はありましたが残念ながらできなくなりました。自転車・歩行用の自由通路を作る場合もかなり困難な課題がたくさんあると思います。

東武鉄道に沿線の首長から高架化の要望もしていますが、どれほどの時間や経費がかかるか、そして実現が可能なのかという問題もあります。

東西の行き来ということであれば、今もエレベーターで東西を行き来することができますが、自転車をふくめて、通過しやすいように駅舎を何とかしていくというほうが、時間的には早いという気がします。

東西の自由連絡通路として地下道を作るとするのは、要望をいただいたばかりで具体的に担当と詰めてはいませんが、その可能性については、申し上げにくいところです。確かにご要望として、自治会長の話も伺いましたが、高齢のかたにとっては踏切を通過するのは怖いと言う話もありますので、検討はしてみたいと思います。はっきりしたお答えができなく、申し訳ございません。

参加者 高畑市長が「あったかいまち」「住みよいふじみ野」と言われ、政策を進めていただいている人口も増えています。働き手の人も入ってきてくれています。霞ヶ丘や上野台のマンションの高層化や、空いたスペースを戸建て等ができ、若い人が入ってきて人口が増えています。これは再開発による人口増加で

すが、それ以外に政策的にふじみ野市の子育て政策などによる人口の増加はどのようなのでしょうか。

市 長

ふじみ野市は子育て支援に力をいれています。

本日午前中に私立幼稚園の PTA 連合会との懇談会がありました。その中で、「子育てするならふじみ野市」とはどのようなものかという話がありました。

子ども医療費無償化は、医療圏として 2 市 1 町で行ないませんが、子育て世代の負担軽減を行っています。保育所では待機児童対策、放課後児童クラブでは老朽化のための建て替え、学校では耐震補強が終わって大規模改修を順次進めています。

公立の小中学校については、ICT 教育ということで、電子黒板を使うなどして、先生がタッチパネルで画像を映して授業を行い、子どもたちは授業に集中しています。西部教育事務所管内でも公立学校で ICT 教育については、ふじみ野市が断トツであると言われていました。

特に人口増加のお話で分かりやすい話としては、大規模改造工事の関係ですが、関越自動車道の西側に三角小学校があります。市内各所で人口急増の時代に学校を作りましたので、学校は老朽化していました。三角小学校の学区内に NTT の社宅跡地があり、大きなマンションが建ちましたが、なかなか入居が進みませんでした。道を挟んで、いま新たに戸建てが作られていますが、そこも NTT 跡地で開発凍結となっていました。

そのマンションや家を買うときに、親御さんが来て自分の子供がどこの小学校へ行くのか、中学校に行くのかと見に行くのだと思います。三角小学校を大規模改造工事の方針を打ち出したとたん、マンションの入居が進みました。方針が決まっただけで、マンションの売れ行きが変わってしまうくらいの影響があります。

子育てしやすさについては、平成 24 年に待機児童がゼロになりましたが、翌年には待機児童が増えてしまいます。これは、お母さんたちのネットワークで、ふじみ野市なら保育を提供してもらえるとということで移り住んだ結果、待機児童が増えてしまうものだと思います。

そのくらい、子育てしやすい、子どもたちの環境を整備していけば、若い人たちが移り住んで来るというように実感しています。

(閉会時)

市 長

上福岡一丁目のタウンミーティングということで、お疲れの時間にもかかわらずご参加いただき、ありがとうございました。また、ご質問をいただいたおかげで、保育所関係の課題についてお話する機会もいただき、ありがたく思っております。

ふじみ野市は誕生 10 周年を迎えようとしていますが、少子高齢化と言われている中で、年をとることは決して、悪いことではなく、今までがんばってきた人たちが、安心安全で、元気で健康で、生きがいを持って生きていく、これが一番の幸せではないかと思います。そのために国全体で、次代を担っていく、

高齢者を支えていく世代に負担を残してはいけない、そのように思っております。

国の法制度が、まだまだこれでは不十分であると私自身が思うことが多々あります。そういうなかで、「これはおかしい」というものについては、国や県に述べていこうと思っています。それはひとえに、皆さんの思いを伝えていくことが必要だと思うからです。

いろいろな制度の中で、例えば生活保護の制度があります。この制度は悪い制度と思っている方が多いと思います。私は生活保護制度は、みんなですらい境遇にある人を救っていく日本の「あったかい」制度だと思います。しかし残念ながら今の時代の中で、その制度を悪用する人も出てきています。それが悪い制度と思われる理由だと思います。

そうであれば、国がもう少し見直しをして、その制度を本当に困っている人たちしか使えないような制度すること、制度自体が今の時代に合っていないのであれば、それを見直していただくことが必要だと思います。

生活保護の制度は、国が 3/4 負担して、ふじみ野市が 1/4 の負担です。ふじみ野市で 24 億円くらいの生活保護費を出しているとしたら、その 1/4 がふじみ野市の負担ということだけでなく、国が 3/4 を出している部分も、もともと皆さんの税金でまかなっているものです。

国民健康保険の制度では、国民健康保険に加入されている方たちの国保税だけでは運営が出来ない状態です。今年度の予算の中でも一般会計から国民健康保険の特別会計に 9 億円ものお金を入れています。やりくりが下手だからというわけではなく、本来なら国が負担しなければならない額が下がっていることが事実としてあります。国民健康保険は、本来は国が事業主だと私は思っています。しかし財政が苦しくなる中で、国の負担分がどんどん減ってきています。そのような中で、国保税だけを引き上げていくわけにはいかないので、最低限皆さんのご協力をいただかないと、運営すらも苦しくなってしまいます。

お伝えしたいことはたくさんありますが、皆さんのために、皆さんからお預かりをした税金をきちっとした形で、優先順位を付けて配分していきます。街の玄関口である駅前を整備、子どもたちの学校、そしてご高齢の方が元気健康でいていただくための好循環社会を目指していく、こうした取り組みをとおして、ふじみ野市は何年たっても持続可能なふじみ野市であるように努めていきたいと思っています。

千葉県の富津市について、テレビで「破綻寸前」という報道がなされました。こうした状況は決して対岸の火事ではないと思います。ふじみ野市がそういう状況にならずに、みんなが住んでよかった、このまちに来て良かった、育って良かった、子どもたちが自分たちの地元を誇りを持ってもらえるような、「あったかいふじみ野市」をつくりたいと思いますので、是非皆様のお力添えをお願いしまして、御礼の言葉に代えさせていただきたいと思っています。

本日、言い忘れた点がありましたら、市役所の広報広聴課や秘書室にご一報いただければと思います。お疲れのところありがとうございました。